

昭和61年度の地質調査所の研究(2).....	企 画 室	6
鉱物資源を考える (2).....	立 見 辰 雄	13
東南アフリカ事情 ⑥ 悩める国モザンビーク	高 橋 清	28
堆積物・堆積岩中の有機物を探る..... —おもに炭化水素について—	米 谷 宏 寺 島 美 坂 田 南 将	41
天然における放射非平衡と地球化学.....	金 井 豊	48
地質相談所でのこの1年.....	岸 本 文 男	56
安部正治技官 創意工夫労者表彰を受ける.....	桂 島 茂	47
海外室だより.....	海 外 室	64
宇和島 UWAJIMA.....	寺 岡 易 司 鹿 池 田 幸 雄 愛 彦	66

口 絵 北京原人のふるさと周口店の丘.....中 嶋 輝 允

編集 地質調査所

発行 株式会社 実業公報社

表紙の写真

レッサーヒマラヤの炭酸塩岩

世界の屋根ヒマラヤ山脈をつくる岩石は もとは浅い海に堆積した砂や泥 石灰などである。 ちょうどいまのヒマラヤ山脈のある場所がインド亜大陸の北側を縁どる大陸棚となっていて そこに先カンブリア紀から新生代始新世まで連続的に地層が堆積した。 炭酸塩岩はその代表的な堆積物のひとつである。 炭酸塩岩の存在は過去のインド亜大陸が現在と同じように温暖で その沿岸には美しいサンゴ礁の発達していたことを示している。

ヒマラヤの炭酸塩岩は通常沢山の生物化石を産するが 表紙に示したレッサーヒマラヤのものは生物の発達する以前の先カンブリア紀のドロマイトで 藻類化石ストロマトライト以外にはめばしいものはない。 その代わり産状は変化に富み サンゴ礁頂部にできたストロマトライト質やオーライト質のもの サンゴ礁外海側の斜面をなす礫質のもの斜面基底から深い海の部分に堆積した縞状のものなどさまざまである。 表紙のドロマイトは縞状のものの典型で 暗色泥質の部分と明色砂質の部分が細かく互層するのが特徴である (文・写真:中嶋輝允)。

7月号予定目次

6,000mの深海底の散策

イエローストーン国立公園

オールド・フェイスフル間欠泉

国立民族学博物館の情報体制と地質情報鉄の歴史館

日本における海洋地質研究の黎明 2—1